

議員氏名：一石 洋子

議案番号：議案第22～26号

案 件 名：令和7年度二宮町一般会計予算

令和7年度二宮町国民健康保険特別会計予算

令和7年度二宮町後期高齢者医療特別会計予算

令和7年度二宮町介護保険特別会計予算

令和7年度二宮町下水道事業会計予算

討論内容：

私は、令和7年度一般会計予算、国民健康保険特別会計予算、後期高齢者医療特別会計予算、介護保険特別会計予算、下水道事業会計予算に賛成の立場で討論いたします。

一般会計です。

予算特別審査委員会傍聴を通して、多岐にわたる新規事業を含めて、行政の説明を聞き、おおむね妥当と判断しました。

特に評価するのは、かねてから私が要望していたガバメントクラウドファンディングに新庁舎の物価高騰分の費用獲得に資する施策として導入を決めたことです。

激動する世界の状況からも、ローカリゼーションの力強いイノベーションが求められる中、二宮には自らつくる住民が吹き寄せられている状況が明確に見えます。

行政が新庁舎建設に向けた本気の覚悟が町外から政策資金を集め、同時に多様な住民団体による資源を引き出すガバメントクラウドファンディングの運用の展開を求めます。

令和6年度は、全国の先進自治体として、気候市民会議が11歳から90代の住民までの参加と異例の住民ファシリテーターと職員のパワーチームで運営され、提言書が公開されています。

環境施策が進むことと、次世代に向けた福祉、教育施策は連動するという世界的な調査結果があり、二宮のまちづくりが環境、福祉、教育で大きく町規模を生かすイノベーションが生まれる適用を求めます。

気候市民会議提言書には、多世代が知恵を集めた地域福祉にも生かすまちづくりの提案がちりばめられており、特に多世代のクオリティー・オブ・ライフを上げる公共スペースが里山から海側まで大地、山林、建築物、様々なエネルギー、内にも外にも生かされるデザインが求められています。

新庁舎建設、そしてラディアン周辺ランドスケープの町有地のグリーンインフラの適用がこれらを引っ張る勢いで展開されるよう求めます。

観光協会の法人化、さらに東大跡地のシンボル事業など、町内の資源がネットワーク化し、それに資する活発な機関であることを期待します。

教育施策では、今ある仕組みで手を尽くす予算でありましたが、予算審査委員会や一般質問答弁で教育課長から、不登校児童生徒の人権に資する文科省の先進的な見立てや、教育主事から、子どもの側から教育環境を創造していくとの力強い発言があり、まさに私は総括質疑で申し上げた、国の上からも下からもがらりと起こっている学校変革への感度を確認することができました。

あとは、首長と教育長の覚悟で、文科省の施策を生かし、多様な学びの学校を一色小学校にのみや学園として創設、さらに町全体の資源が生涯学習の出会いの場となり、多様な居場所のニーズのある子ども、若者を支えるネットワーク施策へのコミュニケーションを進めたいと思います。

その際、町内外の優れたチャレンジャーである様々な団体、文科省や学者ともつながり、協働の学校づくり、学びの居場所づくりに向かい、二宮子ども権利条例の代表的な理念と体现施策となるよう求めます。

介護保険特別会計、国民健康保険特別会計、後期高齢者医療特別会計予算も、おおむね妥当と判断しました。

コロナ対策で非常に大変であった福祉の現場では、今新しいイノベーションの時を迎え、社会福祉協議会をはじめ、地域の様々な仕組みにも新しいコミュニケーションと協働の風を起こすことが喫緊の課題であると痛感しています。

行政の説明にもありましたが、仕事内容の棚卸し、また働く環境の整備を評価いたします。

シルバー人材センターを含め生涯学習、つまり、ジェロントロジーの視野です。これ、老齡学と申しますが、2025年問題のピンチをチャンスと受け止め、高齢者の個性やニーズを生かし、また子ども、若者がいきいきと参画するまちづくりの観点からも、学び、つくる、多世代の助け合いのコミュニケーションが広がる仕掛けづくりに努めていただきたい。

このようなコミュニケーションが防災のまちづくりに直結することは、被災地から二宮の職員が持ち帰ったコミュニティの強さこそが減災であったという情報からも明らかです。

都市整備課、下水道事業会計の審査では、雨水貯留槽の補助について批判的な議論が続いたことにむしろ驚きました。

この国の治水が国策で流域治水に向かっていることについて、議会はもとより町民の皆様にもさらなる啓発が必要と痛感しました。

町内の環境に係るNPO法人は、環境づくりフォーラムとつながって、昨年11月に気候変動時代の防災・減災の学習会として、グリーンインフラの研究者を講師に学習会を、また2月には県の流域治水に係る担当課を呼んで葛川と二宮海岸の歴史と今と題する学習会をラディアンミーティンググループで開催、いずれも多く多くの住民で満員になりました。

企画段階から担当課ともコミュニケーションをしており、今般の貯留施設の補助施策は、数あるインフラの当初からの選択肢であり、年が明けてのビッグサイトでの大規模なグリーンインフラ展示会などの調査も経て、まずは一手としてこの流域の先陣を切った施策であり、国から自治体の裁量で引っ張れる物価高騰対応の地方創生交付金の活用は妥当であったと考えます。

流域全ての自治体、事業者、住民、学校、団体が参加する流域治水ネットワークの啓発が喫緊の課題であり、二宮町が先陣を切って住民とともにこの動きを起こす必要があります。

流域治水はむしろ日本古来の知恵とも言え、かの中村哲氏は、信玄堤に代表される日本の伝統治水技術を運用して世界の尊敬を集めました。

科学的事実の積み上げで、広域の数千の生態系を含む浸水、貯水、遊水に係る仕組みを導入し、県、国と連携する学びと実践は、次世代育成にも寄与し、日本独自の気候変動時代の海外協力の切り札ともなり得る材料です。

国が政策転換した流域治水の啓発を進めるのに資する地域で生かす防災・減災、さらに水道利用の減に資する雨水貯水槽の普及施策を評価いたします。

ぜひとも、山から海までの流域治水の多様な施策の説明、啓発を併せて丁寧に行うことを求めます。

老築化、耐震性等、下水道事業はストックマネジメント計画にのっとり調査を進めてきており、公会計マネジメントそのものも評価します。

最後に、二宮90周年の記念すべき年に、伝統あるガラスのうさぎ像平和と友情の集いは、平和首長会議に参加、議会が平和都市宣言、さらにボトムアップの子ども権利フォーラムを持つ町として、戦争をしている世界の国々の子どもたちへの想像力を持って、力強いアピールを町民とともにを行い、この町の文化を高めることを望みます。

以上です。